

総務常任委員会報告書

会議日時	平成 24 年 8 月 20 日 (月) 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分			
会議場所	○議員控室 ●委員会室 ○大正総合支所 ○現 地			
出席者数	委員 7 名のうち出席者 7 名			
出席委員	委員長	橋 本 保	委員	岩 井 優之介
	副委員長	下 元 昇	委員	山 岡 義 正
	委員	林 健 三	委員	宮 地 章 一
	委員	下元 真 之		
欠席委員				
事務局	田辺 卓			
説明者				
傍聴者	1 人			
付議事件	1. 伊方原発の再稼動を行わないことを求める意見書決議 (24-12)			
	伊方原発の再稼動に反対する意見書採択の陳情書 (24-16)			
	伊方原発の再稼動を行わないことを求める陳情書 (24-18)			
審査・調査	今回の陳情書については、賛否両論の意見が出てきたわけですが、最終的には			
	町民の命が大事か、日本経済を優先させるのが大事かまでの議論に発展し、採決の結果			
	伊方原発の再稼動に反対 3 人、再稼動に賛成 3 人の可否同数となった。			
	可否同数の場合委員長裁決となり、委員長は伊方原発再稼動反対と言う事で			
	4 : 3 で採択となった。			
反対意見	あり			
報告日	平成 24 年 8 月 21 日 (火)	委員長署名	橋 本 保	

【委員会審査経過報告書】

(陳情 24-12) (陳情 24-16) (陳情 24-18) について一括審査

(1) 件名「伊方原発の再稼働を行わないことを求める意見書」決議

「伊方原発の再稼働に反対する意見書」採択の陳情書

伊方原発の再稼働を行わないことを求める陳情書

(2) 現地調査 なし

(3) 委員会室 全委員

(4) 委員の意見

○再稼働に反対すれば日本経済が立ち行かなくなるのではないか、再稼働しながら脱原発に向かうのがいい。

○再稼働に反対すれば一般家庭の電気料金にはね返り、町民負担が大きい。

○国策として原発の恩恵を受けている、再稼働に反対すればそのしわ寄せが他に行く、四万十町だけのことを考えるべきではない。

○原発の安全神話は崩れた、福島悲惨な原状を認識すべきである。

○7・8月の電気需要に供給は十分足りているので再稼働の必要は無い。

○国の政策は国が考えることで、地方議会は町民の代表として最も安心で安全な政策を考えるべきである。

○最終的には町民の命の問題になる、将来に向け子ども達を危険に晒すことのないようにする事が重要である。

今回の陳情については、賛否両論があって、先ほど言ったような意見が出てきた訳ですが、最終的には町民の命が大事か、日本経済を優先させることが重要かの議論に分かれ、採決の結果、伊方原発の再稼働に反対3人・再稼働賛成に3人と可否同数となりました。可否同数の場合委員長裁決となりますので、委員長は再稼働反対と言う事で、4：3で採択となりました。

(5) 審査結果

採択 賛成多数

(6) 反対意見

あり

少数意見の留保について、少数意見留保の発言があり、2人の賛成者があったので、少数意見の留保が成立した。したがって、少数意見報告書が提出された。
